

錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
9月9日発行 NO.16
文責 出崎 友英

「ほころび」

先日、私は体育館への渡り廊下を歩いていました。前を歩いていた生徒が、小さな紙くずが落ちているのを見つけてさげなく拾いました。私とその生徒の背中に「おっ、えらいね。」と声をかけたら、照れくさそうに微笑んで、紙くずを握ったまま歩いていきました。

経営コンサルタントの渡辺真美さんが書かれた「ほころび」という文章を紹介します。

人は「これがよいことで、これが悪いこと」というのがわかっていても、それが自分にとって得であったり、楽であったりすると、少々悪いことでもやってしまうことがある。

よいことを思う自分が「天使」で、悪いことを思う自分が「悪魔」だとすると、私はいつも天使と悪魔の間で揺れ動いている。

例えば3mぐらいの短い横断歩道があったとする。信号は赤だが車の通る様子もなく、周りにぼつぼつと渡り始めている人がいる。待っているのがなんだかバカらしくなって赤なのについつい渡ってしまうことがある。

スーパーで誰かがさわって棚から落とした品物が床に転がっている。「自分が落としたわけじゃないんだから、拾わなくてもいいわ。」と通り過ぎるか、「いやいや、私が拾えば済む話じゃないの。」と拾い上げるか、選択肢は分かれる。➤

疲れていて、電車の「優先席」に座りたくなるとき。重そうな荷物を持って階段を上ろうとしているお年寄りを見たとき。人は迷い、人は悩む。

この迷いがあるのは、自分の中に損得勘定が働くからだ。人間は誰でも、楽をしたいし、面倒くさいことはやりたくない。してもしなくてもたいして人に影響を与えないようなときは特に迷いが生じる。

今日も目の前には、切り分けられたケーキ。大きさを見比べて、天使と悪魔が私の頭の中でささやく。「そんなにたいした違いはないわ。小さい方でいいじゃない。」「いやいや、大きい方がたくさん食べられるよ。大きい方を取っちゃえ。」

悪魔の声に耳を傾けたとき、私の心に「ほころび」ができる。そのほころびを大きくしようと、悪魔が私の心のほころびに、ほじほじと指を突っ込んでくる。

小さな心のほころびは、積みり積もってやがて大きな穴になる。自分が悪魔のささやきどおりにしてしまったときは心しておこう。「あっ、私の心のほころびが広がった」と。これまでたびたび悪魔のささやきに耳を傾けてきた私の心は穴ぼこだらけ。心のほころびを繕ってくれる私の天使は、ぼろぼろになりながら今日も戦う。

負けるな、わたし！ 「いい話の広場」WEBより引用しました。



中体連陸上大会があります。

9月12日(火)、えがお健康スタジアムで「市中体連陸上大会」が開催されます。本校からは、陸上部と他の部活動からの精鋭をあわせた総勢60人が選手及び補員として参加します。選手の皆さんはこれまで、夏休み期間も暑い中に練習に励んできました。陸上部のスローガン「限界突破」を一人一人が心において、それぞれの自己新記録をめざして頑張ってくれることを期待しています。
がんばれ！ 錦ヶ丘中！



お知らせ・お願いです。

○この度、男子バレー部の岩下将大くんと水上陽樹くんが熊本県選抜チームに選出され、県代表として12月に大阪市で開催される「JOC都道府県対抗中学バレー大会」に出場します。

岩下くん、水上くん、頑張ってください。2人の選手そして熊本県選抜チームの躍進を願っています。

○9月3日(土)に熊本市PTAミニバレー大会が本校体育館などいくつかの会場で開催されました。本校のPTAも参加されました。3年ぶりの開催となった大会でした。錦ヶ丘PTAチームは大熱戦の末、惜しくも入賞を逃しましたが、とてもわきあいあい楽しい雰囲気でした。

選手として出場された皆さん、応援に来たいただいた方々、そして何より、大会の運営に尽力された皆さん、お疲れさまでした。



きついと思ったその先に、成長のカギがある。

「先生のコトバ集」より